芦屋市阪神・淡路大震災30年事業として行う防災活動等（冠事業）【市民グループ等】

令和7年3月14日更新版

	実施主体	取組の名称	取組の目的（区分）	実施背景・課題認識	取組の内容 （計画）	実施日時・期間	実施場所等	対象者・実施規模	取組に期待する効果	取組による効果の所見等
1	呉川町自主防災・防犯会	「防災食」にチャレンジ！	「災害を生き抜く力」を育む	災害時には、おにぎりやパンだけになる可能性がある。栄養バランスの摂れる防災食についての普及が大切。	実施時期が夏休み中のため、子どもさんと一緒に参加を促す。コープこうべさんの協力をいただき、誰もが簡単にできる「防災食」に挑戦する。	令和6年8月24日 10時～12時	木口記念会館	呉川町内の住民 参加者33名（町外参加者も含む）	災害時でも、簡単な防災食が作れるようにする	・町外参加者を含め、33名の参加があった。 ・災害時を想定し、チラシなどの紙を使い、紙食器をつくった。また、身近な食材を使い、火も使わず防災食をつくった。 （災害時には、おにぎりやパンなどの食生活に偏りがちになる傾向を考え、栄養バランスを考え、簡単な防災食7品をグループにわかれてつくった。） ・子どもさんの参加もあり、また掲示板のチラシを見て参加した町外の方とも、楽しく会を催すことができた。
2	一般社団法人ブランディング芦屋	震災の経験や教訓を継承し、備えを万全にして命を守る	「災害を生き抜く力」を育む	各地の大災害のニュースを見るにつけ、 1　災害は喉元過ぎれば危機感が薄れている。 2　いまだに乾パンやおにぎりが非常食だと思っている。 以上の課題に挑戦する。	「カフェレストランBellePotあしや」を利用して、下記の取組を実施する。 1　アニメ「地球が動いた日」のビデオ鑑賞会 2　災害食の紹介と試食会のための「災害食学び講座」	【ビデオ鑑賞会】 ・令和6年10月18日 　14時30分～16時 ・令和6年11月14日 　14時30分～16時 ・令和6年12月9日 　14時30分～16時 【災害食に係る講座】 ・令和6年12月17日 　14時～16時	芦屋市民センター2階 「カフェレストラン BellePotあしや」	上映会（3回）：約70名 講演会（1回）：約25名	アニメ映画（ビデオ）鑑賞会を通じて、震災の経験や教訓を継承するほか、幼児向け災害食や高齢者向け災害食の紹介と試食会を実施し、災害食に対する認識を新たにしてもらい、常備食としての用途も認識してもらう。	1. 震災アニメ「地球が動いた日」は特に高齢者はあの日を思い出して、「次世代に伝える大切さ」、「隣近所の助け合い」を再認識し、涙を浮かべて感動していた。 2. 高齢者の参加者が多く、我が身を守るための「備え」に対する認識を自助、共助、公助の観点から理解していただいた他、震災の経験者として当時を振り返り、次世代への経験・教訓の継承の重要性と自分たちの役割を理解していただいた。 ※試食会は、時間の関係から実施に至らなかった
3	芦屋市大桝町自治会	やってみよう！BOSAI	「災害を生き抜く力」を育む 「まちの災害対応力」を育む	宮塚町、茶屋之町、大桝町、業平町、公光町の各自治会と、区域にある商店会、事業所による「みんなの秋祭り」の中の1拠点として「大桝公園」で、未来につなぐ防災まつり。7町での防災訓練が、途絶えていたのを復活させたい。	芦屋市消防の協力で「煙室体験」「救急・救命体験」「消火訓練体験」など。 防災士会の協力で「防災用具の使い方体験」「防災グッズ展示」など。 神戸女学院大学・防災女子による簡単な食事作りの実演、試食。 芦屋警察「パトカー・白バイ展示」。	令和6年10月27日 11時30分～16時30分	大桝公園	子どもも含め、広く一般を対象とする。 実施規模：1,000人以上	各種体験等により、安全を確保するための行動等を育む。 また、地域を繋いだ実施を通して、地域における災害対応力を育むとともに、30年後のまちづくりに資する。	阪神・淡路大震災から30年、未だ消えていない当時の思いを語りつなぐ大切さや、今後に発生されると予想される災害に備えようという意識付けが出来た。 ロゴマークが呼び掛けているメッセージが充分に伝わったと思う。 また、関西テレビの番組「newsランナー/今昔さんぽ」の取材時に、冊子を見せたことで、当日の取材を追加しての放映に繋がったことは、大きな成果でした。
4	特定非営利活動法人 あしやNPOセンター	災害時対応セミナー	「災害を共に乗り越える心」を育む	災害後の助けとなる被災者支援制度「災害時ケースマネジメント」、「社会的処方」からウェルビーイングについて学ぶ。	津久井進さん「災害時ケースマネージメント」、西智弘さん「社会的処方（社会的孤立を地域のつながりで緩和する方法）」のそれぞれの立場から事例や取り組みを伺い災害を受けた後のケア方法を学ぶ。	令和6年12月8日 13時～15時 ・16時～18時30分	芦屋市立 あしや市民活動センター リードあしや	芦屋市民 講演会40人 交流会17人	社会地域とつながることが孤立や孤独予防となり、身体的、精神的に健康であり、かつ社会的に良好で満たされているウェルビーイングな地域となる。 このことが地域の災害時の対応力の向上になる。 また、生活再建するための力になる。	・取組事例から人と地域のつながりが被災時の寄り添い、生活再建の支援につながることを実感し、参加者からの言葉で平時からの課題として考える場となった。 ・「社会的処方」について、その取組を伝える機会となった。同じ目的で活動している団体への後押しとなった。 ・このセミナーで学んだことを、持ち帰って地域へ伝えたいとの意見を数名から頂き、後日資料等を渡した。今後さらに地域での広がりが期待される。 ・この講演会から、参加者同士のつながりができ、さらには新たな取組へと広がりが見られた。市民活動への一歩へつながる期待以上の効果が得られた。
5	あおぞらドラマカンパニー 「青い空に絵をかこう 上演実行委員会」	震災の“あの日”を想い、 記憶をつなごう 朗読劇「青い空に絵をかこう～ 震災の街で生まれた愛の手紙」	「災害を共に乗り越える心」を育む	平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を風化させることなく、経験した世代が未来世代～震災後に生まれた世代に朗読劇というカタチを通じて引き継ぐことを目的といたします。	平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の記憶を風化させることなく、経験した世代が未来世代～震災後に生まれた世代に引き継ぐことを目的に、あの時、何が起こり、人々は何をし何を思ったのかを 6名の登場人物の手紙からなる朗読劇として上演する。	令和7年1月11日	芦屋市保健・福祉センター	160人	多くの市民の方々、特に若い世代の方々にご覧いただき、震災当時、何が起こり、人々は何をし何を思ったかを共有してもらうこと。	市民の方はじめ会場いっぱいの観客（約160名）に向けて、震災から30年の節目にあたり、あらためて、震災当時、何が起こり、人々は何をし、何を思ったのかという事を共有してもらう事が出来た。 また、冒頭の市長のメッセージも、今後起こりうるであろう災害に向けて、何をなすべきかという事がよく伝わった。
6	（取り下げ）									
7	芦屋市商工会	1.17芦屋市民の追悼式	「災害を生き抜く力」を育む 「まちの災害対応力」を育む 「災害を共に乗り越える心」を育む	震災を経験していない若者が増加する一方で、震災の犠牲となられたご遺族をはじめ、実際に震災の光景を目の当たりにし、まちの復興や生活の再建に取組んでこられた被災者の皆様も年々歳を重ねてこられています。 震災後30年の節目を迎えるにあたり、犠牲となられた方へ哀悼の意を表するとともに、防災意識を高め、教訓を未来へつなぐために開催します。	震災発生時刻に合わせて、追悼式を開催し、芦屋市及び市内関係機関等よりご来賓を迎え、本市をはじめ　阪神・淡路大震災の犠牲となられた方々への哀悼の誠を捧げると共に、震災と経験・教訓の承継と更なる活用について決意をあらたにする。	令和7年1月17日 5時46分～13時	JR芦屋駅前広場（ペデストリアンデッキ）	芦屋市民約1000人	芦屋市民が、気軽に出勤時や駅利用の際に献花に訪れることができ、震災犠牲者への哀悼の意を表し、震災の記憶を振り返る機会となる。また、次の世代に震災の教訓を次世代へ語り継いでいく場となる。	阪神・淡路大震災の発生から30年の節目を迎えるにあたり、「1.17芦屋市民の追悼式」の開催パンフレットにロゴマークを掲載のうえ、配布を行いました。令和7年1月17日（金）5時46分～13時にJR芦屋駅前広場（ペデストリアンデッキ）において追悼式を開催。献花に来られた参加者は昨年915人でしたが、30年の節目を迎える今回は参加者1259人となり、300人以上増加いたしました。多くの芦屋市民が震災犠牲者への哀悼の意を表し、震災の記憶を振り返る機会となると同時に、次の世代に震災の教訓を語り継いでいく場とすることができました。

芦屋市阪神・淡路大震災30年事業として行う防災活動等（冠事業）【市民グループ等】

令和7年3月14日更新版

	実施主体	取組の名称	取組の目的（区分）	実施背景・課題認識	取組の内容 （計画）	実施日時・期間	実施場所等	対象者・実施規模	取組に期待する効果	取組による効果の所見等
8	岩園コミュニティ・スクール	岩園コミスク 阪神淡路大震災30年事業 1.17は忘れない～私たちの30年～	「災害を共に乗り越える心」を育む	阪神淡路大震災発生後の夏から毎年「1.17は忘れない 地域防災訓練」を様々な角度から実施しています。 節目の年には特別企画を開催してきました。 30年の節目の年に、コミスクの30年の歩みのまとめと各自のあの日への想いを繋ぎ、各人の防災意識を高めることを目的として企画しました。	午後1時　　受付開始 午後1時20分　開会の辞、来賓紹介 午後1時30分～午後1時45分　　第1部 午後1時50分～午後3時30分頃　第2部 終演後ただちに　第3部 閉会 第1部：岩園コミスク30年の歩み・あの日のこと、当時の学校の様子等について 第2部：岩園小学校で生まれた朗読劇「青い空に絵をかこう～震災の街で生まれた愛の手紙」上演 第3部：みんなで歌いましょう「しあわせ選べるように」 ※震災当時の写真の展示あり ※参加者には「1．17は忘れない　岩園コミスク30年の歩み」等をまとめた冊子とコロナ禍で作成した防災ガイドブック等の資料を配布 ※自由に感想を書き込んでいただくアンケート用紙の配布等あり	令和7年1月18日 13時20分～15時30分頃 （開場13時）	芦屋市立岩園幼稚園 遊戯室	地域住民を中心に140名	あの日のこと・震災について、みんなで考える機会をもつことで、あの日への想いを繋ぎ、防災意識が高まることを期待しています。	第1部では、大人の方々は、あらためて当時を振り返ることで助け合って乗り越えたことを隣の席の方と話し合う人や感慨深く耳を傾けてくださる人、「あの時は知らなかった！今日初めて知った！」と言われる人・・・。子ども達にとっては、初めて身近で起こったことを具体的に知る機会となったようでした。 第2部では、子どもから大人まで朗読劇に引き込まれて聴き入っておられました。 第3部で、「しあわせ運べるように」をみんなで合唱することで『前を向いて進もう！』という気持ちで帰途についていただけたと思います。 この催しを通して、「地域の輪・人と人との繋がりの大切さ」が災害時に大きな力となることを再確認し「誰かが出は無くて、誰もが行動できる！そんな心強い地域になれますように」という心持ちを皆さんと共有できていればと願っております。
9	特定非営利活動法人 芦屋市民まつり協議会	阪神・淡路大震災30年花火事業	「災害を共に乗り越える心」を育む	阪神・淡路大震災から30年の節目の年を迎え、震災の犠牲者への哀悼の意味を込め、また次世代に記憶を繋いでいただくきっかけになる花火を打ち揚げます。	震災30年を迎える2025年1月17日に震災の犠牲者の鎮魂の意味を込め、花火を打ち揚げます。	令和7年1月17日 17時46分～17時56分	芦屋市陽光町 ミラタップパーク芦屋 潮芦屋ビーチ	来場者350 名 ・市内各所より観覧	震災の犠牲者への鎮魂とともに、この花火を契機に震災の経験を語り継いでいただきたい。	花火を打ち揚げることで、市民の方に震災の記憶を思い起こし、ご家族・ご友人などとお話しするきっかけとしていただいた。 30 年の節目を感じていただけたのではないかと考える。
10	呉川町自主防災・防犯会	「あの日」の想いと記憶を、 未来へつなぐ	「災害を共に乗り越える心」を育む	阪神・淡路大震災から30年が経ち、地域住民の中でも、震災体験をされている方が少なくなってきている。震災の体験を継承していく必要性を感じる。	震災当時、呉川町周辺におられた方を中心に、①被害を受けた被災者の視点、②被害を受けつつも、支援活動を続けられた方の視点から、被災体験の報告や数人でのパネルディスカッション形式で行う。震災直後の映像を視聴する。	令和7年2月2日	芦屋市保健福祉センター 3階　会議室1	呉川町内の住民／周辺の住民 参加数　45名	被災体験を通じて、日ごろの防災意識を高める。	被災体験を通じて、日ごろの防災意識を高めることを目的として開催したが、終了後に実施したアンケートでは、大きな反響があった。 また市内の高校で教鞭をとっている先生が、会のSNSを見て、生徒4名と一緒に参加して頂いた。実際に体験をしたことを話することは、参加者の心に響き、災害への備えにつながると感じた。 また時期をみながら、開催する予定。